

# 第1章 第二次計画における成果と課題

本市では、平成19年度末に第一次、平成23年度末に第二次子ども読書活動推進計画を策定し、図書館や行政関係課や学校、幼稚園、保育園（所）等で諸施策を進めてまいりました。

第三次計画策定にあたり、平成28年3月に、子どもたちと保護者を対象に読書に関するアンケート調査（※1）を実施しました。このアンケート調査によると、小学校5年生で74.1%、中学校2年生で73.9%の子どもたちが「本を読むことが好き」と答えています。第二次計画策定の際、平成23年2月に実施したアンケート調査（※2）と比較すると、小学校5年生も中学校2年生も「本を読むことが好き」と答えた割合は減少しています。5年の間に子どもたちを取り巻く環境が変化し、スマートフォンやタブレット等が子どもたちにとって身近なものとなりました。インターネットを使って興味・関心のあることを調べたり、電子書籍を読んだりする等、機器を上手に活用する子どもが増えていることは望ましいことですが、反面、SNSやゲームに費やす時間も増えていると推察されます。また、市教育振興基本計画（※3）に係るアンケート調査によると、放課後は塾や習い事に通う子も多くなっています。これらのことから、以前に比べて本に親しむ時間が減少していると思われます。しかし、平成28年度全国学力・学習状況調査（※4）における「学校の授業以外に普段1日当たりどれくらいの時間読書をするか」という設問では、「毎日10分以上読書をする」と回答した児童生徒は小学生が65.4%、中学生で53.5%と全国平均（小学校63.5%、中学生49.7%）を上回っていることから、第二次計画での児童生徒への働きかけにより、読書習慣については、他の地域に比べ、身に付いてきているといえます。読書が好きになった理由としては、「幼少期の本の読み聞かせ」を挙げた子が多く、読み聞かせが読書への興味・関心を高める上で大きな役割を果たしていることがわかりました。一方、読書が好きではない理由としては、「読みたい本が見つからない」と挙げた子が多くいました。家庭や学校等で子どもたちにどのように本に関する情報提供を行うかも課題の一つであると考えられます。さらに、第一次計画から引き続き課題となっているのは、学年が上がるにつれて読書をしなくなる傾向が見られることです。

第二次計画の推進にあたっては、図書館や行政関係課で協力し合い、取組を進めてきました。また、「子ども読書活動推進連絡会」の開催により、幼稚園・保育園（所）や学校、関係機関、ボランティア団体等の横のつながりも年々深まり、連携、協力体制の整備が少しずつ進んできました。

第三次計画では、第二次計画の成果と課題を踏まえ、事業をしぼり、焦点化することで、より一層の読書活動の推進を図っていきます。

※1 平成28年3月実施 全小学校2年生、5年生、全中学校2年生、市内高等学校2年生対象

※2 平成23年2月実施 全小学校5年生、全中学校2年生、市内高等学校2年生対象

※3 平成27年7月実施、全中学校2年生対象

※4 平成28年4月実施 全小学校6年生、全中学3年生対象

## 1 目標とする数値について ※（ ）は第二次計画の28年度目標数値

### (1) 図書館・公民館における児童書貸出冊数

平成22年度 70,557冊 ⇒ 平成27年度末 86,661冊  
(78,000冊)

(2) 学校図書館における児童生徒一人あたりの貸出冊数

	平成22年度	平成27年度末
小学生	25.7冊	37.5冊(30冊)
中学生	3.4冊	7.8冊(10冊)

(3) 1か月に読む本の冊数に関する子どもの割合

	平成22年度	平成27年度末
小学校2年生 1か月に読む本の冊数が5冊以上の子どもの割合		64.5%
小学校5年生 1か月に読む本の冊数が5冊以上の子どもの割合	45.8%	36.7%(51%)
中学校2年生 1か月に読む本の冊数が3冊以上の子どもの割合	42.8%	40.8%(48%)

(4) 1か月に1冊も本を読まなかった子どもの割合

	平成22年度	平成27年度末
小学校2年生		2.1%
小学校5年生	3.4%	4.7%
中学校2年生	5.9%	5.9%

## 2 成果

### ①図書館、公民館や学校図書館における児童書の貸出冊数が増えている。

図書館においては、児童書の買い換えが進み、資料が新しくなってきたこと、また、学年別、テーマ別のブックリストを作成し、資料とともに展示を行うことで、貸出冊数の増加につながったと考えられます。さらに団体貸出については、新規の団体も増えていることも児童書の貸出冊数の増加につながっています。学校図書館においては、司書教諭(※5)、学校司書(※6)を中心とした読書活動の積極的な取組により貸出冊数が増加したと考えられます。

※5 司書教諭養成の講座を修了し、資格を取得した教員

※6 校長の指示に基づき、教職員と連携しながら、学校図書館の環境整備、蔵書の管理等への支援、児童生徒の学校図書館の利用や読書に関する授業及び指導への支援等を行う市臨時職員

### ②「読書タイム」が、子どもたちの学校生活に定着した。

学校における子どもの読書活動推進に係るアンケート調査(※7)によると、各小中学校とも継続し、ほぼ毎日「読書タイム」に取り組み、読書の時間の確保に努めたことで、「読書タイム」が定着してきました。また、「推薦図書百選」の紹介や、「多読者の記録」を表彰するなど、子どもたちの意欲を高める独自の取組を行った学校もありました。

※7 平成28年8・9月実施 全小中学校対象

**③学校司書と教職員が連携して、計画推進に取り組み、各学校での読書活動の充実を図ることができた。**

学校における子どもの読書活動推進に係るアンケート調査によると、「学校司書と教職員との連携」については、小学校12校のうち10校で、また中学校は5校のうち4校が「十分達成されている」「ほぼ達成されている」と回答しています。学校司書が、教職員と連携しながら、学校図書館の環境整備、学習資料の準備、授業への支援、読書に関する行事の企画支援等を行うことにより、読書活動が活性化しました。

**④学校図書館の学校図書館図書標準達成率の向上、また全小中学校における学校図書館システムの導入等、学校図書館の整備が進んだ。**

蔵書冊数については、学校図書館図書標準（※8）の100%達成を目標に計画的に整備を進め、平成27年度末には、市全体では、111.0%となりました。図書購入システムの導入により、各学校におけるデータベース化が進み、さらに平成28年度には、全ての学校に学校図書館システムを導入したことで、図書の貸出、返却が正確、迅速にできるようになり、効率的に蔵書が管理できるようになりました。また、各学校同士で蔵書の情報について共有できるようになり、学校間の連携が深まりました。

※8 文部科学省が示す、学級数に応じた整備すべき基準蔵書数

**⑤幼稚園や保育園（所）では、図書館による団体貸出を利用するなどして絵本を充実させ、読み聞かせが充実した。**

図書館と連携し、団体貸出を利用したり、お話会を実施したりしている園があります。また、保育の中で、図書館に出掛け、本を借りる経験をしている園もあります。各園で子どもの興味・関心に応じた絵本を読み聞かせることで、本に親しむ機会としています。

**⑥「はじめまして、絵本」事業からのつながりにより、図書館では絵本の会への参加者が増え、小さな子どものいる家庭に、本の楽しさを伝えることができた。**

平成24年度からブックスタート事業（平成26年度より「はじめまして、絵本」事業）を始め、絵本の配布も年々増加し、平成27年度は乳児相談対象者の98%に絵本を配布することができました。毎月の実施日には、乳児と保護者に実際に絵本の読み聞かせをし、「絵本の会」の案内を行ったことにより、直後の「絵本の会」への参加につながり、ひいては乳幼児のいる家庭に絵本の楽しさを伝えることができました。また、くつろいで読書をしてもらえるよう児童室の「おはなしのへや」に育児関係の資料と、乳幼児向けの絵本のコーナーを設けました。

**⑦図書館による学校図書館への支援の充実により、学校図書館の整備や、授業による活用が推進された。**

移動図書館車の学校訪問や、出張ブックトークを行いました。また、学校図書館の運営相談（除籍・書架整理等）を行いました。資料については、千葉県教職員互助会の寄贈事業を受けるなど、学校配本用資料の整備に努めました。また、学校司書の授業支援に役立つように全小中学校に国語科教科書と、中学校には調べ学習用に修学旅行関連の資料を団体貸出しました。

**⑧子どもの読書活動に係る幼稚園・保育園（所）や小中学校、高等学校、特別支援学校と関係機関、ボランティア団体等が、共に研修や情報交換を行う連絡会の開催により、連携が深まった。**

毎年8月に行っている子ども読書活動推進連絡会において、日頃の読書活動の取組についての情報交換や推進計画をふまえた読書活動の推進の方策について協議等を行っています。それぞれの活動の様子や取組、課題を知ることで、連携が深まり、それぞれの活動の見直しを行うことができました。

### **3 課題**

前述のとおり、第二次計画策定の際のアンケート調査の結果に比べ、読書が好きな子どもの割合が減少しているということから、第三次計画策定にあたっては、読書が好きな子どもの割合の増加を目指して次の4つの課題に対する方策に重点を置く必要があると考えます。

#### **①図書館及び学校図書館の蔵書の充実**

アンケート調査によると、図書館の児童書・青少年図書のさらなる充実が求められています。基本図書の入れ替えを進めるとともに、利用する子どもたちや時代のニーズも取り入れながら、バランスを考えた蔵書構成を図っていくことが必要です。学校図書館においても、蔵書の充実が求められています。本の入れ替えをしながら、子どもたちの自主的な読書活動につながるように、調べ学習で活用しやすい本、豊かな心を育てる本などをバランスよく整備することが必要です。

#### **②図書館・学校図書館の効果的な活用**

子どもの読書活動の推進には、読書のすばらしさや学ぶことの面白さを教える大人の存在が重要です。専門職員（図書館司書、司書教諭、学校司書）をより充実させることも大切な要素です。専門職員の積極的な働きかけにより、子どもたちが、自主的にさまざまな場面で図書館や学校図書館を活用できるようにする必要があります。特に学校図書館においては、学校司書の支援により、各教科の学習で学校図書館を効果的に活用し、児童生徒の資料活用能力を高めることが求められています。また、必要な本をそろえるための学校間の連携についての具体的な方策が必要です。

#### **③家庭での読書活動への働きかけ**

どの子どもにも読書習慣が身に付くようにするためには、家庭での取組が大きな役割を担っています。現在行っている「はじめまして、絵本」事業をはじめ、乳幼児の頃からの読み聞かせに始まり、年齢が上がっても家族で読書が楽しめるよう、子どもから大人まで楽しめる本の紹介等を関係機関が継続して情報提供していくことが必要です。

#### **④図書館、学校等の連携・協力体制の強化**

子どもの読書活動をさらに推進するために、保育所、幼稚園、学校、図書館、ボランティア団体、その他関係機関が連携して継続的に情報提供や事業展開を行うことが必要です。関係各所が課題や具体的方策について共通認識をし、連携・協力体制を強化することが求められています。

## 第2章 第三次計画の策定

### 1 趣旨

本市では、平成19年度末に「すべての子どもに読書の喜びを」をスローガンに第一次計画を策定してから、読書の大好きな子どもを育てるためにさまざまな取組を進めてまいりました。読書によって身に付けた幅広い教養と豊かな心は、将来自分の未来をたくましく切り拓いていく大きな力につながることから、平成23年度末に策定した第二次計画では、計画推進のスローガンを「読書で拓く 子どもの未来」とし、各事業を推進してきました。

第一次計画、第二次計画共に、計画推進の根幹には「読書の大好きな子どもを育てるには子どもの身近にいる大人による働きかけが重要である」という考えがありましたが、第二次計画の取組の大きな成果として、子どもの読書活動推進に携わる子どもの身近にいる大人（教職員、学校司書、図書館司書、ボランティア、保健師等）のネットワーク作りが進んだことが挙げられます。子どもの身近にいる大人が、共通理解の下に働きかけをしていく下地が固まってきたといえます。

第三次計画では、第二次計画で培ったネットワークを基にして、子どもの身近にいる大人が、さらに連携を深めながら、それぞれの立場で適切に、そして継続的に子どもに働きかけをしていくことが望まれます。

そこで、第三次計画においても、計画推進のスローガンを第二次計画に引き続き「**読書で拓く子どもの未来**」とし、家庭・地域・学校等、それぞれの場での読書活動の充実によって、子どもが読書から多くのことを学び、人生をより深く生きる力を身に付けることができるよう、家庭・地域・学校等の役割を明確に示し、それぞれの場で実施する事業を計画しました。また、第二次計画における成果と課題や、子どもたち、保護者、学校へのアンケート調査の結果を踏まえ、事業を整理するとともに、目標数値も実現可能なものとなるよう見直しを図りました。

基本方針については、次のように定め、より一層の読書活動の推進に取り組んでまいります。

### 2 基本方針

#### (1) 子どもの読書活動を支える読書環境の整備・充実

子どもが本を必要としたときに、その子どもにとって魅力のある本がいつも身近にあるよう、図書資料をはじめ、施設設備も含めた読書活動に係る環境の整備・充実に努めます。

また、保護者をはじめ、学校等の教職員や学校司書、ボランティア、図書館の職員、地域の大人など、子どもの読書活動に係るさまざまな立場の大人が、子どもと一緒に本を読んだり、読書の楽しさや素晴らしさ、大切さを子どもに伝えたりしながら、子どもの自主的な読書活動を支えていくことができるよう人的環境の整備・充実に努めます。

#### (2) 家庭・地域・学校等の関係機関の連携・協力の推進

学校、幼稚園・保育園（所）、図書館、こどもルーム等やボランティアグループ等の民間団体、教育委員会など、子どもの読書活動に係る関係機関が連携し、家庭や地域の方々とともに読書活動の推進に取り組みます。

#### (3) 子どもの読書活動に関する理解・関心の普及

子どもの読書活動の意義や重要性について、さまざまな場面で広く普及・啓発を図るよう努め、市民の理解と関心を深めるようにし、市全体で子どもの読書活動を推進していく気運を高めてい

きます。

### 3 計画の期間

平成29年度からおおむね5年間とします。

なお、この期間中において必要に応じて見直しを行います。

### 4 計画の対象

本計画でいう「子ども」とは、おおむね18歳以下の者をいいます。

### 5 財政上の措置

本計画に掲げられた事業等を推進するため、市をはじめ関係機関等は、その役割に応じた財政上の措置を講じるよう努めます。

## 第3章 計画推進のための方策

### 1 家庭における推進方策

生まれたばかりの赤ちゃんが、読書習慣を身に付けた人に育つには、身近な大人の関わりが大きく影響します。家庭は、子どもが初めて本や物語と出会い、読書の楽しさを知るところです。文字が読めなくても、読み聞かせによる親子のふれあいは情緒と言語の発達を促します。また、子どもが多く時間を過ごす家庭での読書環境を整えることで、子どもの読書活動の活性化が期待されます。

#### (1) 家庭の役割

子どもが読書習慣を身に付けるためには、乳幼児期から本が身近なもので、楽しいものという体験が不可欠であり、そのために家庭の果たす役割は非常に大きいと思われれます。

昨今、家庭環境や生活スタイルの変化により、家族で過ごす時間の減少やスマートフォン・携帯電話等の普及によるインターネット依存症などが話題になっています。まずは保護者が読書の大切さ、楽しさを認識し、読書活動への理解を深める必要があります。

そして、乳幼児期から子どもと一緒にわらべうたを歌う、読み聞かせを行う、子どもと一緒に本を読むひとときを持つ、良い本との出会いの機会を作るなど、子どもと親が共に読書する体験が、ごく自然に家庭生活の中で行われていることが大切です。

こうした子どもにとって、最も身近な家庭における子どもの読書活動を推進することにより、読書が大好きな子どもの育成を目指します。

#### 【事業内容】

事業項目	事業番号	事業の内容	所管課
乳幼児への働きかけ	1	絵本やわらべうた、手遊びうたの紹介等、保護者への情報提供や啓発を行う。	図書館 社会教育課 (公民館) こども保育課 健康増進課
子育て学習講座の実施	2	子育て学習講座を通じて、家庭において子どもが保護者の愛情を感じながら読書の楽しさを体得し、読書に関する興味や関心を引き出すように子どもに働きかけられる啓発を保護者に対して行う。	社会教育課
地域・家庭教育学級への読書活動支援	3	地域・家庭教育学級を実施しようとする者に、読書活動に関する講師などの情報提供を行う。	社会教育課

家庭への啓発と情報発信	4	家庭での保護者による読み聞かせの大切さや、意義について理解と普及を図るために、親子を対象とするイベントや保護者を対象にした講習会等を実施する。	社会教育課 (公民館) 指導課 図書館 こども保育課
-------------	---	---	--



## 2 地域における推進方策

子どもが、その成長とともに活動の場を広げていく地域社会には、それを助ける拠点となる様々な施設があります。

中でも図書館は、市民がさまざまな情報を得たり、読書を楽しんだりする生涯学習の大きな拠点です。また、公民館の図書室やこどもルームも、地域で過ごす時間の多い子どもたちにとって、本とふれあうことのできる身近な場所です。

図書館や公民館、こどもルーム等の地域に密着した施設が、地域の方々と連携しながら子どもの読書環境の整備に努めることで、子どもの読書活動の活性化が期待されます。

### (1) 図書館の役割

図書館は、様々な年齢層の人とともに、子どもが多くの本と出会える場所です。選ばれた豊かな本の中から、子どもは好きな本を自由に手に取ることができ、また、周囲の大人が子どもの発達に即した適切な本を選んで手渡すことができます。

図書館では、より多くの子どもが読書の楽しさを知り、その楽しさを共に分かち合うことのできる機会を、おはなし会等の行事・様々なテーマを取り入れた展示・各年代に向けたブックリストの作成等を通して提供していきます。

子どもに多様な読書の機会を提供するためには、児童室の環境整備と資料の充実や、子どもを取り巻く大人の認識、理解が大切です。

そのため、子どものための図書資料の収集、読書環境の工夫、レファレンス(※9)や読書相談の充実を図り、多種の児童サービスに対応できるように職員の育成に努めます。

※9 利用者が調べたいことについて、必要とされる資料を検索、提供、回答することにより支援する仕事

### 【事業内容】

事業項目	事業番号	事業の内容	所管課
移動図書館の活用促進	5	より多くの子どもが移動図書館の本を利用できるよう、移動図書館車の学校訪問によるPRを行う。さらに、貸出・返却を行うステーション(※10)の再編成・整備を行う。	図書館
児童、青少年の図書の充実	6	基本図書の買い替え補充、蔵書の精選、新刊補充を行うとともに、読み聞かせ、お話会、青少年対象のサービス、各種本の紹介のための研究資料の充実に努める。	図書館
職員研修の充実	7	内部研修を充実させ、千葉県公共図書館協会、各種専門機関の研修に参加する。	図書館
フロアワーク(※11)の充実	8	児童専任司書を常時、児童室に配置し、子どもへの読書相談やレファレンスの充実を図る。	図書館

レファレンス・読書案内の充実	9	レファレンス記録を活用し、選書や読書案内等へ反映させ、展示、ブックリスト等を活用した本の紹介を行う。	図書館
子どもと本をつなぐ大人への支援	10	保護者、保育者、教職員、ボランティア等に対し、子どもの本の選択、読み聞かせ等の相談に応じ、資料提供や助言等の学習支援を行う。	図書館
読書感想文・感想画コンクールの実施	11	小中学生対象の「読書感想文・感想画コンクール」を開催する。	図書館
「はじめまして、絵本」等、子どもと本を結ぶ事業の推進	12	乳児相談時の絵本の配布や、発達段階に応じた区分による「絵本の会」「お話会」等を実施する。	図書館 健康増進課
子どもに関わる機関、施設等への支援	13	子どもに関わる機関、施設等の選書支援と読書相談を行う。	図書館
団体貸出の充実	14	幼稚園、保育園（所）、学校等への貸出の充実に努める。	図書館

※10 移動図書館が定期的に巡回する拠点

※11 書架の間をめぐって子どもたちと接する読書援助の仕事

## (2) 公民館、こどもルーム等の役割

住民にとって身近な社会教育施設である公民館の図書室は、子どもたちにとっても身近な地域の図書館です。子どもの読書活動推進に向けて、蔵書の整備と並行して、読書案内リーフレットや新刊図書コーナーの設置、夏休み読書感想文課題図書コーナーの設置など、子どもが本にふれあい、読書に親しむ機会を提供していきます。

こどもルームは、放課後や夏休み等の長期休業において、子どもたちにとっての第二の学校であり、第二の家庭でもあります。こうした子どもの居場所においても、読書環境を整備し、読み聞かせ等で積極的に子どもに働きかけ、読書活動を推進することが求められています。

### 【事業内容】

事業項目	事業番号	事業の内容	所管課
公民館親子教室での啓発	15	公民館主催講座の親子教室内で、読書や読み聞かせについての啓発に努める。	社会教育課 (公民館)
公民館図書室の資料の充実	16	各公民館図書室の蔵書の整備を計画的に行い、常設の新刊図書コーナーや、期間限定で小中学生を対象に夏休み読書感想文課題図書のコーナーを設置する。	社会教育課 (公民館)
こどもルームにおける読書活動の推進	17	こどもルームの児童向け図書の充実に努めるとともに、読み聞かせ等、子どもが本とふれあう機会を確保する。	こども保育課 指導課

### 3 学校等における推進方策

子どもの読書習慣を形成していく上で、幼稚園・保育園（所）・学校は大きな役割を担っています。楽しんで本を読み、読書の幅を広げていくことができるような環境を整備し、適切な支援を行うことが求められます。

#### (1) 幼稚園・保育園（所）の役割

幼稚園・保育園（所）においては、子どもに語りかけること、また絵本を読んだり見せたりすることを通して、乳幼児期から言葉や心を育て、生涯にわたる読書習慣の基礎を培うことが大切です。

また、家庭に対しては、幼稚園・保育園（所）が行っている子育て支援の一つとして、読み聞かせ等の大切さや意義を理解してもらうための取組が必要となってきます。

幼稚園・保育園（所）以外でも乳幼児をとりまく地域の中で、施設や地域の方々、保護者との連携・協力を得ながら、絵本等にふれる機会が持てるよう工夫していくことも大切です。

#### 【事業内容】

事業項目	事業番号	事業の内容	所管課
乳幼児向け図書の充実	18	季節・年齢に合った絵本などの乳幼児向け図書の充実に努める。	こども保育課 指導課
読書環境の整備	19	絵本や物語を中心として、子どもたちが本に興味を持つことができるよう、空間づくりを工夫するとともに、本に親しむ時間を確保する。	こども保育課 指導課
お話会の実施	20	ボランティアや図書館等と連携し、親子で楽しめるお話会を実施する。	こども保育課 指導課 図書館
職員研修の実施	21	職員研修を実施し、読み聞かせの大切さや、意義、効果的な読み聞かせの方法等についての理解を深める。	こども保育課 指導課
家庭の啓発・家庭への情報発信	22	乳幼児向けの絵本紹介をするなど、家庭での読み聞かせの大切さや意義についての理解とその普及に努める。	こども保育課 指導課

#### (2) 小中学校の役割

学校は、児童生徒の読書習慣を形成していく上で大きな役割を担っています。乳幼児期から小学校に入学するまでの間、生活環境の違い等により、子どもが経験してきた読書体験には大きな個人差が見られます。さまざまな情報メディアのあふれる生活環境の中で、スマートフォンを使っでのコミュニケーションやテレビ、コンピューターゲームに多くの時間を費やす子どもも少なくありません。そのような中で、学校の教育活動の中では、すべての子どもに、本と出会う機会や読書時間を保障することができます。

各学校は、司書教諭が中心となって各事業を推進することができるよう、校長のリーダーシップのもと、各学校の実情に応じて司書教諭の校務分掌上の配慮を行うなど工夫し、教職員の協力体制づくりに努めます。また、司書教諭及び図書主任は、読書活動の推進計画、学校図書館の運営計画等を立案するとともに、学校司書やボランティアとの連携の要となるよう努めます。

第二次計画に引き続き、読書タイムを実施したり、ボランティア等と連携したお話会を実施したりすることにより、本との出会いの場を意図的に設定していきます。また、学校図書館資料の充実を図るとともに、子どもが意欲的に読書に取り組むことができるよう、各学校での子どもの発達段階に応じた働きかけを工夫していきます。

学校司書による支援も大きな鍵となります。司書教諭や図書主任が中心となり、学校司書と教職員が連携して、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等で学校図書館を活用した授業を、年間指導計画の中に位置づけ、展開するようにします。また、すべての教職員の共通理解のもと、学校図書館を中心とした読書活動を推進できるよう、教職員の意識と指導力の向上を図る研修も行います。さらに、学校図書館システムを有効活用し、学校間で連携を深め、児童生徒へ充実した資料提供や蔵書管理を行っていきます。保護者・ボランティアとも連携・協力を深めながら、学校全体で読書の好きな子どもの育成に努めます。

#### 【事業内容】

事業項目	事業番号	事業の内容	所管課
読書タイムの実施	2 3	全校で読書に取り組む時間を学校の実態に合わせて位置づけ、教職員も読書をする。	指導課
ボランティア等と連携したお話会の実施	2 4	ボランティアの支援による読み聞かせなどを実施し、学年・学級単位でのお話会を推進する。	指導課
特別支援学級での読み聞かせの実施	2 5	学級担任・教科担任・学校司書が学習の中で読み聞かせを行ったり、ボランティアによる読み聞かせを行う。	指導課
調べ学習の充実	2 6	各教科、総合的な学習の時間等の学校図書館を利用した調べ学習を、年間指導計画の中に位置付けて推進する。	指導課
学校図書館資料の充実	2 7	本の入れ替えをしながら、学校図書館図書標準の100%達成を目指し、図書資料を、国語の教科書で紹介されているもの、調べ学習で活用できるもの、心を育てるもの、子どもの興味・関心の高いものなど、バランスよく整備する。	指導課

読書活動推進に係る教職員研修の充実	28	教職員が市内小中学校の現状と課題を踏まえて研修を深め、自校における読書活動の推進を図ることができるよう市主催研修を開催する。	指導課
読書行事の開催	29	「読書の日」など、学校の実態に応じて読書に親しむきっかけとなる行事を委員会活動等で企画する。	指導課
児童生徒によるお話し会の実施	30	小学校において高学年が低学年に読み聞かせを行う、中学生が小学生に本の紹介を行う、小学生が幼稚園（保育園）児に紙芝居を行う等、交流お話し会を実施する。	指導課 こども保育課
家庭の啓発・家庭への情報発信	31	学校日より、図書日よりなどの中で、児童生徒向けの情報、家庭向けの情報を発信する。	指導課
学校司書の配置	32	児童生徒への読み聞かせや、図書の紹介、調べ学習等の授業の支援、学校図書館の環境整備を行う学校司書を全小中学校に配置する。	指導課
	33	学校司書の派遣日数や派遣時間の増加を図る。	
学校司書の研修の充実	34	学校司書の研修会を開催し、各校の取り組みの共有化とあわせ、学校司書の資質の向上を図る。	指導課
教職員と学校司書の連携の強化	35	学校の実態に応じて、司書教諭を中心に、教職員と学校司書とが連携して、学校図書館を活用した授業の推進を図るとともに、児童生徒の発達段階に応じた適切な本の紹介を行い、読書活動の活性化を図る。	指導課
学校図書館システムの活用	36	小中学校の蔵書のデータベース化により、効率よく本を提供できるよう、学校間で情報を共有できるシステムの効率的な運用を図る。	指導課
「四街道子どもブックリスト」の作成と活用	37	児童生徒の意見を取り入れながら、子どもの読みたい本、子どもに読ませたい本のリストを作成し、活用することで、読書活動の充実を図る。	指導課

#### 4 家庭・地域・学校等間の連携・協力の推進

子どもが生活のさまざまな場で本と出会い、読書に親しむことができるよう、行政機関がコーディネートし、子どもの読書活動に係る関係機関・家庭・地域の連携・協力を推進していきます。

これまでもボランティアが各学校の読書活動の推進を支えてきましたが、ボランティア間の連携を深め、より一層のボランティア活動の充実を図ります。

##### 【事業内容】

事業項目	事業番号	事業の内容	所管課
子どもに関わる機関、施設等への支援 (再掲)	38	子どもに関わる機関、施設等の選書支援と読書相談を行う。(再掲13)	図書館
団体貸出の充実 (再掲)	39	幼稚園、保育園(所)、学校等への貸出の充実に努める。(再掲14)	図書館
見学の受け入れ	40	子どもたちが図書館に親しむ機会として、可能な範囲で図書館内の見学を受け入れる。	図書館
児童生徒によるお話会の実施(再掲)	41	小学校において高学年が低学年に読み聞かせを行う、中学生が小学生に本の紹介を行う、小学生が幼稚園(保育園)児に紙芝居を行うなど、交流お話会を実施する。(再掲30)	指導課 こども保育課
ボランティアによる支援の充実	42	ボランティアの支援により、読書活動の活性化を図る。	指導課 こども保育課
「子ども読書活動推進連絡会」の開催	43	子どもの読書活動に係る幼稚園・保育園(所)や小中学校、高等学校、特別支援学校と関係機関、ボランティア団体等が、共に研修や情報交換を行う連絡会を開催する。	指導課 図書館 こども保育課 社会教育課 健康増進課

## 5 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

子どもの読書活動を推進するにあたり、子どもの周囲の大人が読書活動の意義について十分な理解と関心を持つことが重要です。そのため、子ども読書活動推進に向けた施策、事業について、様々な機会を捉え、保護者を含めた市民への広報活動に努めていきます。

### 【事業内容】

事業項目	事業番号	事業の内容	所管課
乳幼児への働きかけ（再掲）	4 4	絵本やわらべうた、手遊びうたの紹介等、保護者への情報提供や啓発を行う。（再掲1）	図書館 社会教育課 （公民館） こども保育課 健康増進課
子育て学習講座の実施（再掲）	4 5	子育て学習講座を通じて、家庭において子どもが保護者の愛情を感じながら読書の楽しさを体得する。また、読書に関する興味や関心を引き出すように子どもに働きかけられる啓発を保護者に対して行う。（再掲2）	社会教育課
家庭への啓発と情報発信（再掲）	4 6	家庭での保護者による読み聞かせの大切さや、意義について理解と普及を図るために、親子を対象とするイベントや保護者を対象にした講習会等を実施する。（再掲4）	指導課 社会教育課 （公民館） 図書館 こども保育課
	4 7	学校だより、図書だよりなどの中で、児童生徒向けの情報、家庭向けの情報を発信する。（再掲3 1）	指導課
情報提供の充実	4 8	子どもの本や読書に関する情報提供を行う。	図書館
	4 9	保健センターに情報掲示コーナーを設置し、お話会の案内や本のリスト等を掲示する。	図書館 指導課 健康増進課

## 6 推進体制の整備

本計画を充実したものとするためには、計画推進の中心となり、子どもの読書活動に係る関係機関・家庭・地域の連携・協力を推進する組織が必要です。

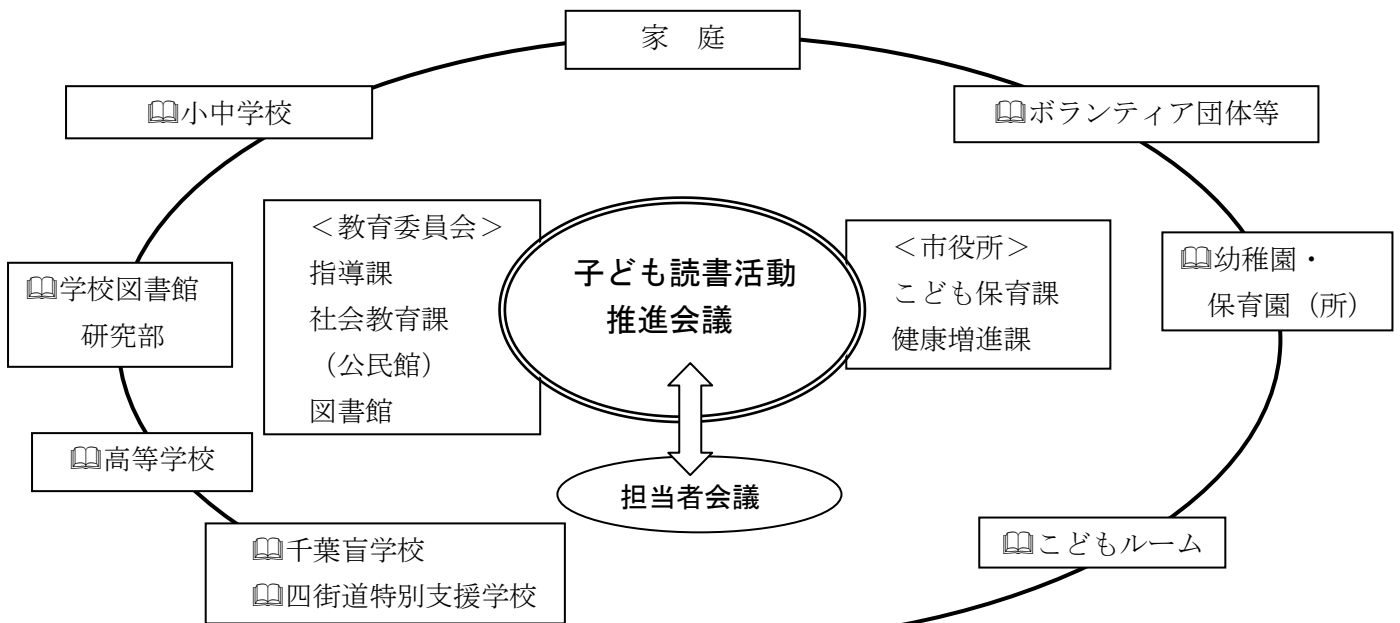
そこで、「子ども読書活動推進会議」とその下部組織である担当者会議を設置し、事業の進捗状況を確認し、計画全体について継続的に協議を行います。また、子どもの読書活動に関するすべての関係者が共通理解を図り、同じ方向を目指して本計画の積極的な推進を図ることができるよう、幼稚園・保育園（所）や学校、関係機関、ボランティア団体等が共に研修や情報交換を行う連絡会を開催し、推進会議を中心とした推進体制を整備します。

【事業内容】

事業項目	事業番号	事業の内容	所管課
子ども読書活動推進会議及び担当者会議の設置	50	本計画の事業の推進を図るため、事業の進捗状況を確認するとともに、計画全体について継続的に協議し、必要に応じて修正を行う。	指導課 社会教育課 図書館 こども保育課 健康増進課
「子ども読書活動推進連絡会」の開催（再掲）	51	子どもの読書活動に係る幼稚園・保育園（所）や小中学校、高等学校、特別支援学校と関係機関、ボランティア団体等が、共に研修や情報交換を行う連絡会を開催する。（再掲43）	指導課 図書館 こども保育課 社会教育課 健康増進課
関係機関の連携	52	関係機関の間で子どもの読書活動に関する相互の情報提供、情報交換を行い、協力して本計画を推進する。	図書館 指導課 社会教育課 （公民館） こども保育課

【推進体制図】

主に、下図の関係機関等で連携・協力体制をつくり、取り組みを進めていきます。



※上図📖マークの団体等は、子ども読書活動推進連絡会のメンバー



## 7 目標とする数値

子どもの読書活動の推進状況を把握するために目標とする数値を定めました。

計画期間を平成29度からおおむね5年としていることから、平成33年度を目標年度とします。

※(2)(3)は、特別な支援を必要とする子どもについては、支援者と共に読んだ本もカウントする。(読み聞かせも含む)

### (1) 図書館・公民館における児童書貸出冊数

平成27年度末 86,661冊 ⇒ 平成33年度末 90,000冊

### (2) 学校図書館における児童生徒一人あたりの貸出冊数

	平成27年度末	平成33年度
小学生	37.5冊	40冊
中学生	7.8冊	10冊

### (3) 1か月に1冊も本を読まなかった子どもの割合

	平成27年度末	平成33年度末
小学校2年生	2.1%	1.0%以下
小学校5年生	4.7%	2.5%以下
中学校2年生	5.9%	3.0%以下

### (4) 図書館における団体貸し出し資料の貸出冊数

	平成27年度末	平成33年度末
団体貸出冊数	5,869冊	6,500冊

# 卷 末 資 料

1	「読書に関するアンケート調査」の結果	・・・20
2	学校における子どもの読書活動推進に係るアンケート調査	・・・30
3	策定の経過	・・・31
4	四街道市子ども読書活動推進計画策定委員会設置要綱	・・・32
5	四街道市子ども読書活動推進計画策定委員会委員名簿	・・・34
6	策定に係る教育委員会内部組織	・・・34

# 1 「読書に関するアンケート調査」の結果

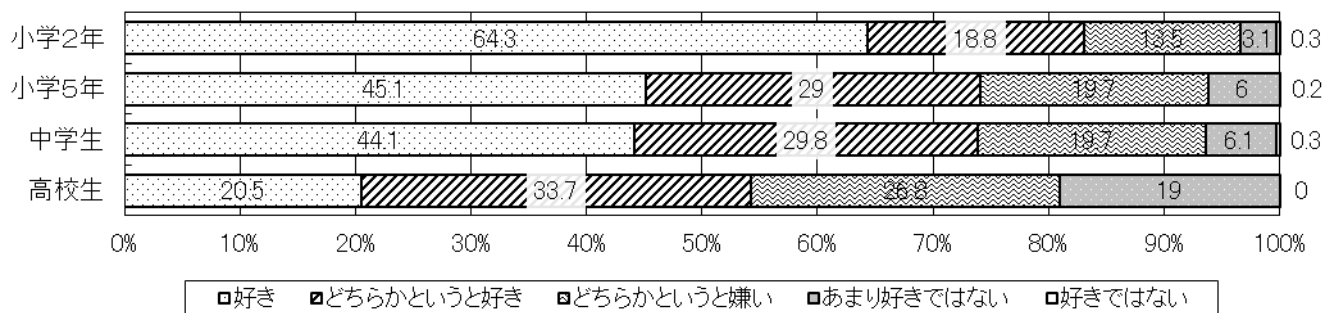
四街道市における子どもの読書活動の現状及び読書に対する意識等を把握し、第三次計画策定の基礎資料とするため、アンケート調査を実施した。

## 1 調査時期と調査対象者 (調査時期 平成28年3月)

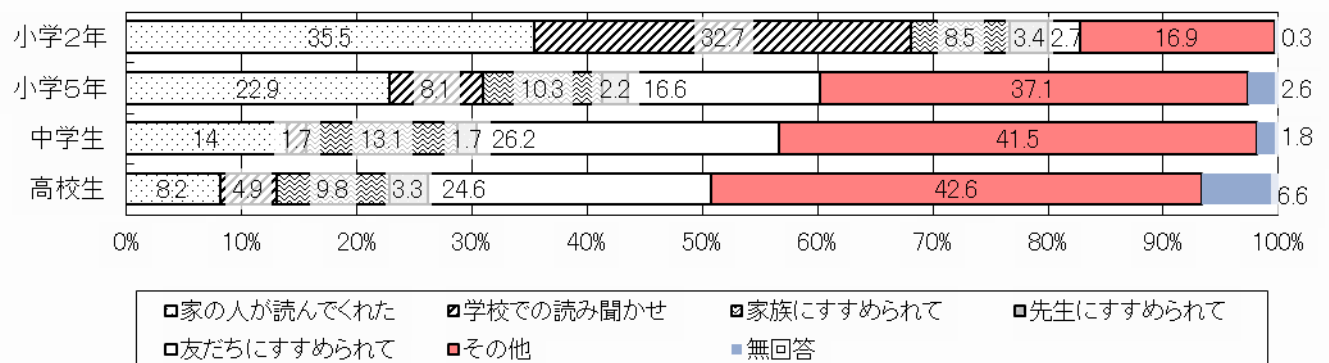
調査対象者	人数
市内小学校2年生児童	709名
市内小学校5年生児童	634名
市内中学校2年生生徒	709名
市内高等学校2年生生徒	205名
市内小学校2年生児童保護者	622名
市内小学校5年生児童保護者	458名
市内中学校2年生生徒保護者	378名

## 2 市内小・中・高等学校の児童生徒

(1) あなたは、本を読むことが好きですか。



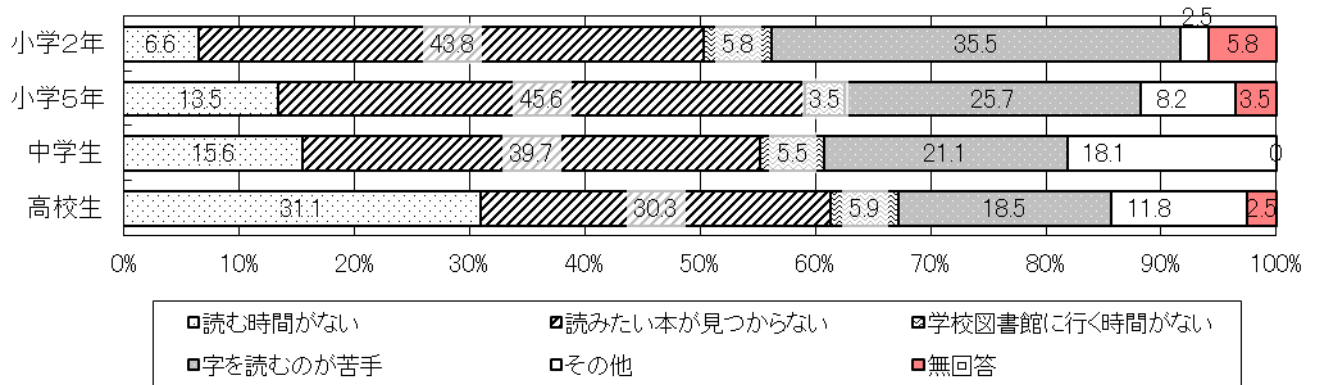
(2) なぜ本を読むことが好きですか。※(1)で「好き・どちらかという好き」が回答



※「その他」の回答

小学2年生	小学5年生	中学生	高校生
<ul style="list-style-type: none"> <li>読んでみたら楽しかったから</li> <li>前から好きだから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読んでみたら楽しかったから</li> <li>前から好きだから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読んでみたら楽しかったから</li> <li>好きな作家がいるから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読んでみたら楽しかったから</li> <li>好きな映画の原作だから</li> </ul>

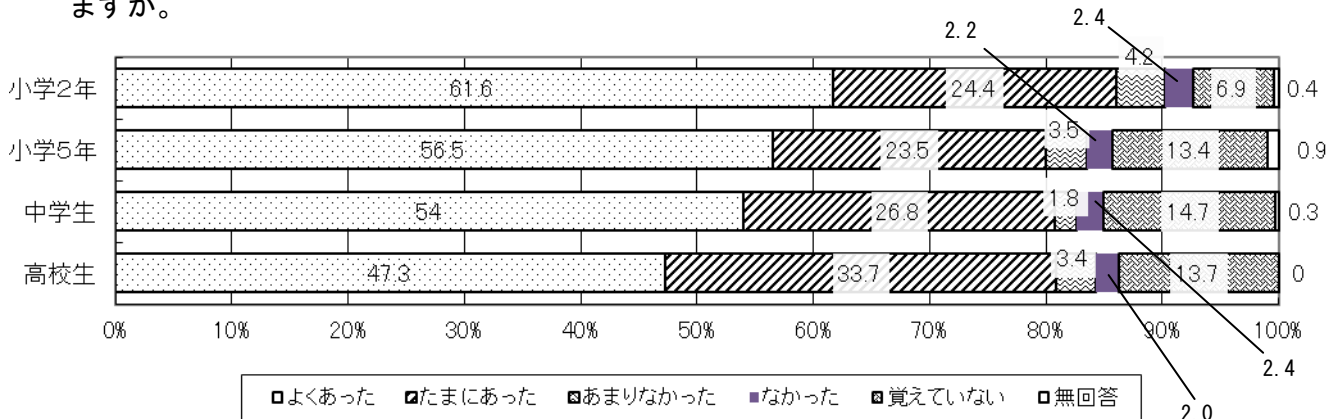
(3) なぜ本を読むことが好きではないのですか。※(1)で「あまり好きではない・好きではない」が回答



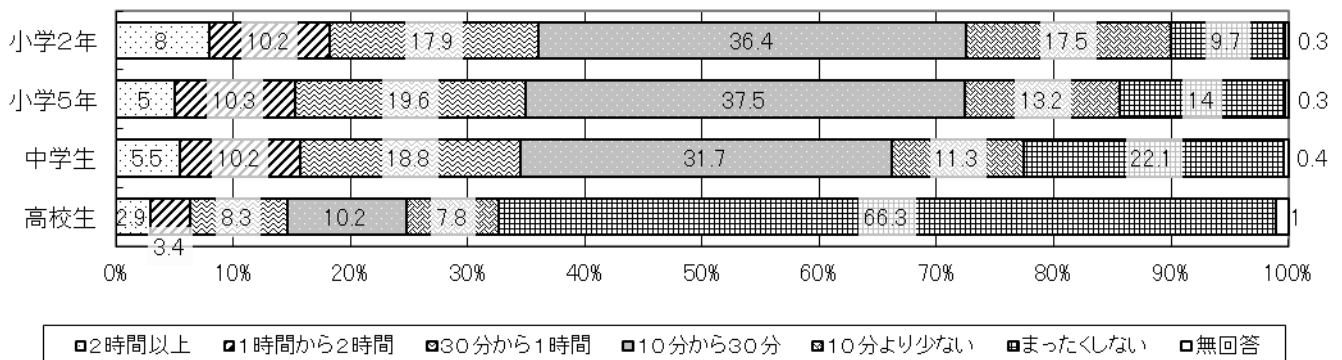
※「その他」の回答

小学2年生	小学5年生	中学生	高校生
・面倒だから	・おもしろくないから	・面倒だから	・途中で飽きてしまうから

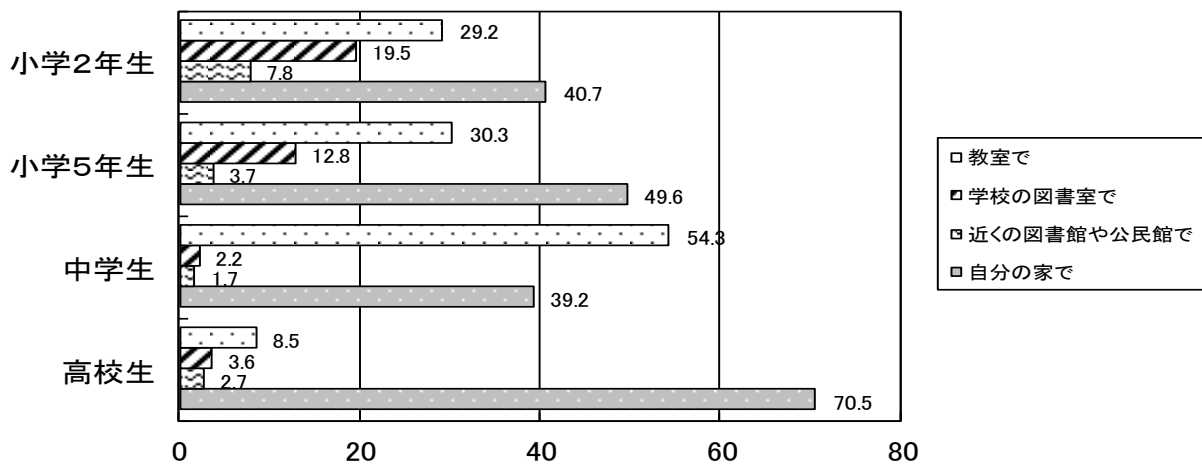
(4) あなたが小さいとき、家の人や保育園、幼稚園の先生などに本を読んでもらったことはありますか。



(5) 家や図書館で、ふだん（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書を行いますか。（教科書や参考書、マンガや雑誌は除きます。）



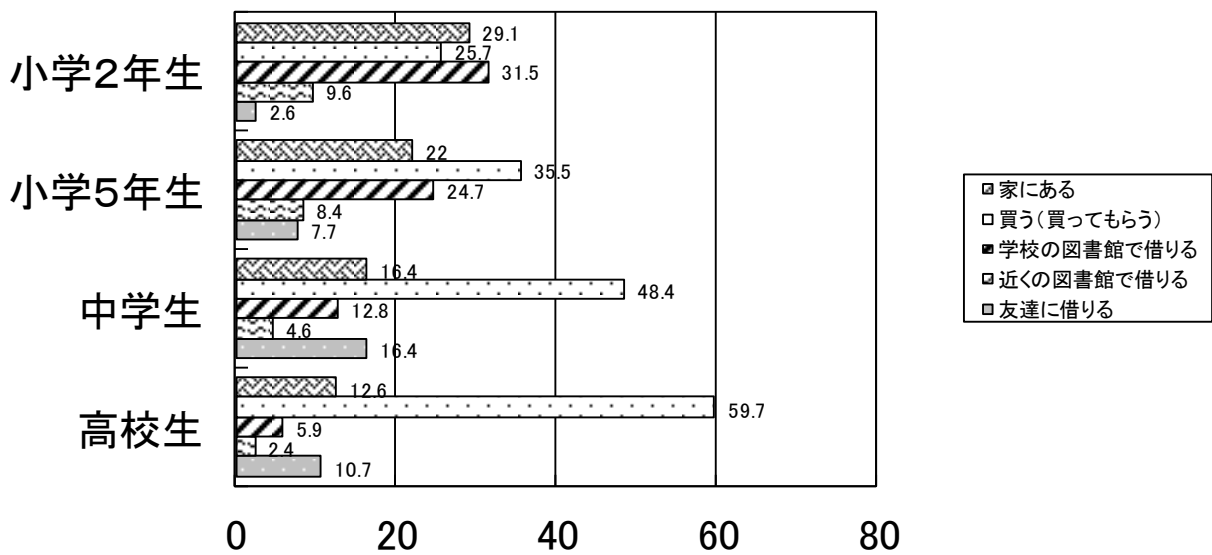
(6) あなたは本を読むとき、どこで読むことが多いですか。(複数回答)



※「その他」の回答

小学2年生	小学5年生	中学生	高校生
・外出先で	・外出先で	・外出先で	・電車の中で

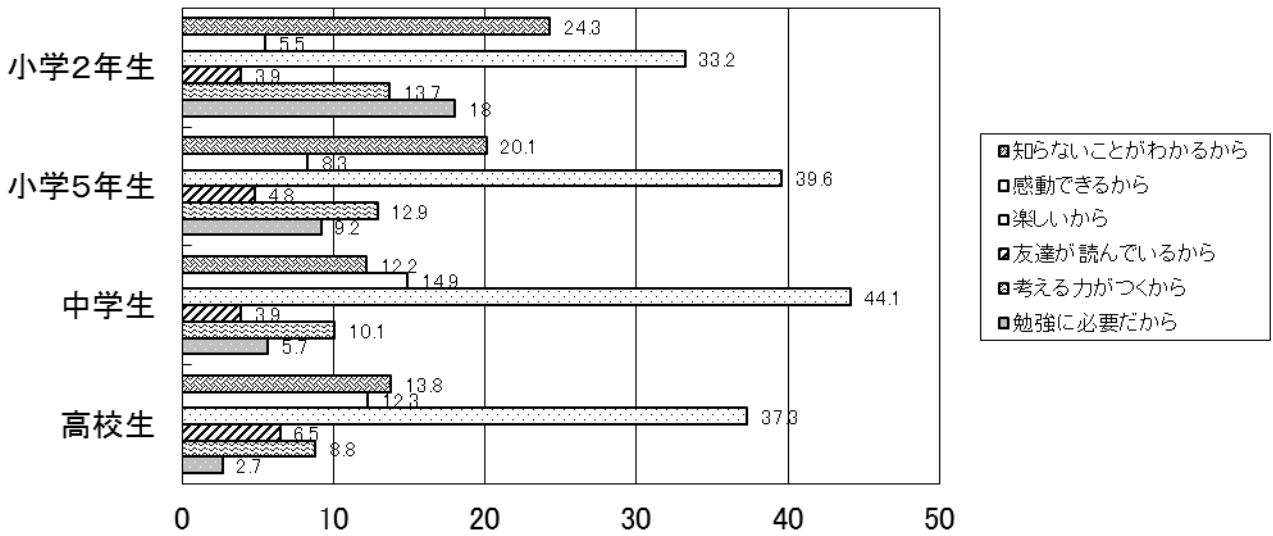
(7) あなたは本を読むとき、その本をどのようにして手に入れることが多いですか。(複数回答)



※「その他」の回答

小学2年生	小学5年生	中学生	高校生
・学童ルーム	・教室の本	・先生の本	・先生の本

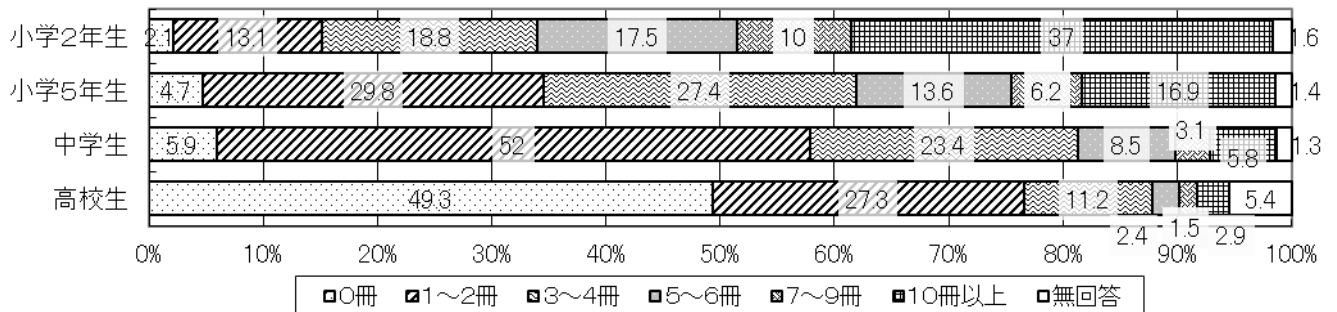
(8) あなたが本を読むのはどうしてですか。(複数回答)



※「その他」の回答

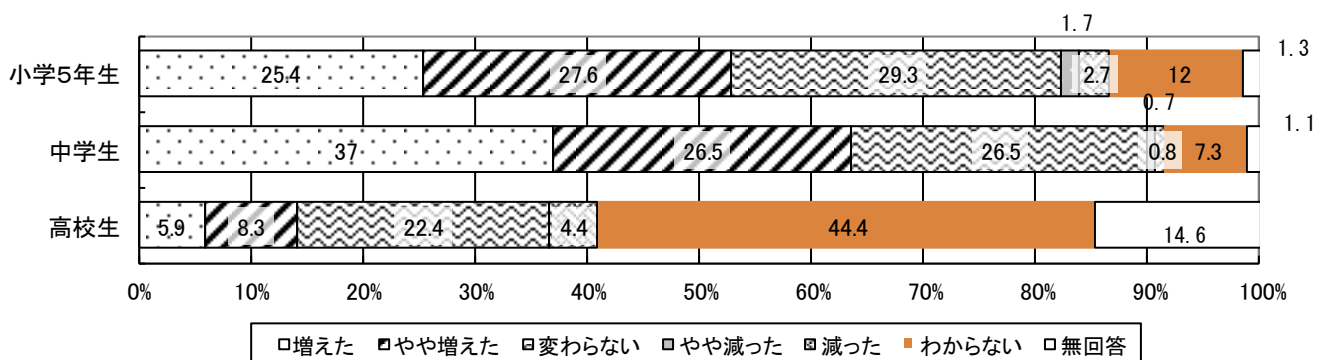
小学2年生	小学5年生	中学生	高校生
・暇だから	・おもしろいから ・暇だから	・読書タイムがあるから ・暇だから	・暇だから

(9) あなたは最近1か月間に、本を何冊ぐらい読みましたか。読んでいる途中でも1冊に入れてください。

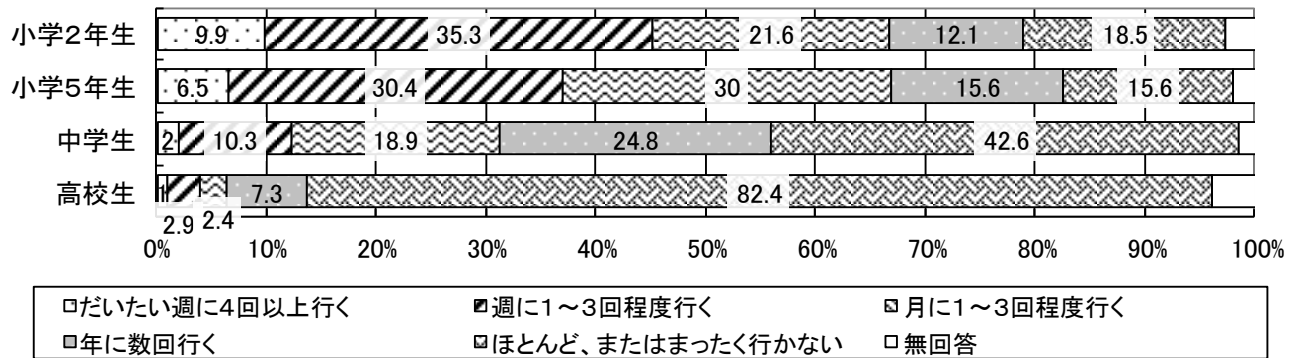


(10) 学校での読書タイムをきっかけとして、本を読む時間や回数が増えましたか。

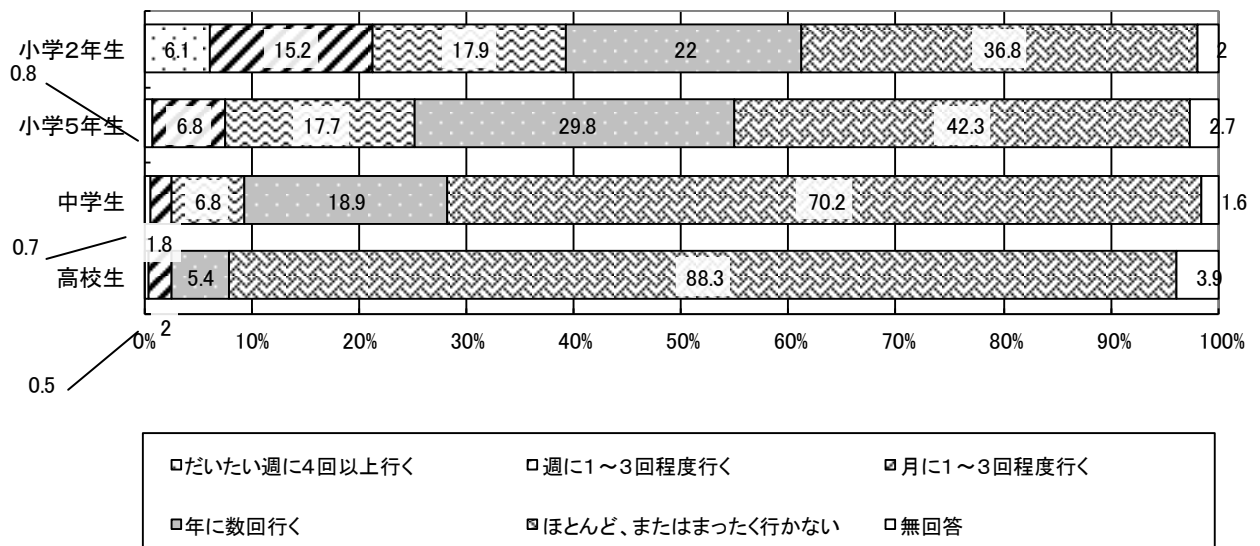
※小学2年生は実施せず。



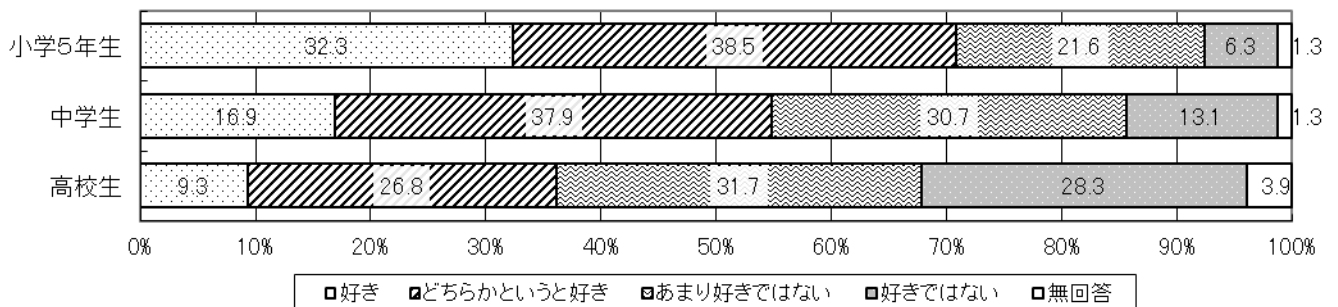
(11) 学校で、昼休みや放課後に、図書室へどれくらい行きますか。



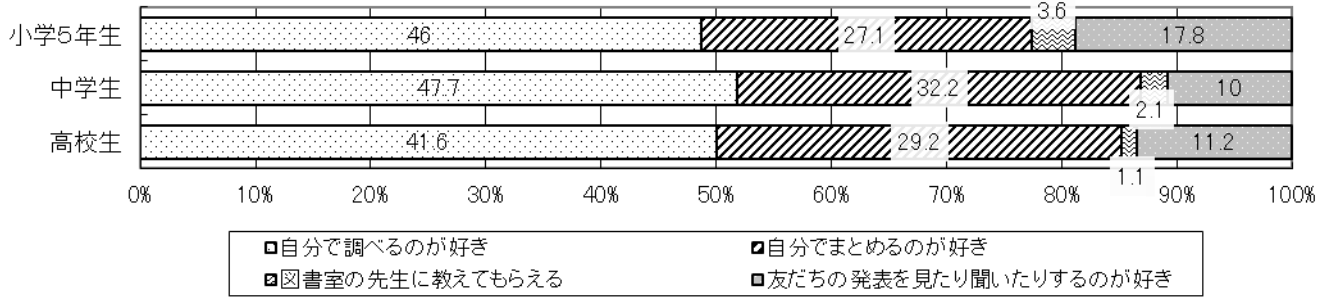
(12) 放課後や学校が休みの日に、本を読んだり借りたりするために、図書館や公民館へどれくらい行きますか。



(13) 本を使った調べ学習は好きですか。 ※小学2年生は実施せず



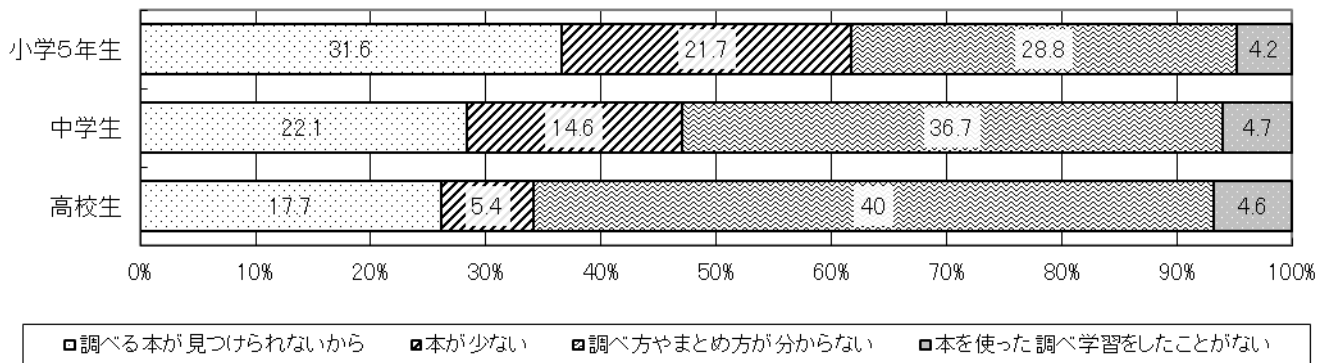
(14) 本を使った調べ学習が好きな理由。※(13)で「好き・どちらかというとき好き」が回答



※「その他」の回答

小学5年生	中学生	高校生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本を使って調べるのが楽しいから</li> <li>・新しい発見があるから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本が好きだから</li> <li>・楽しいから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勉強よりも楽しいから</li> </ul>

(15) 本を使った調べ学習が好きでない理由。※(13)で「どちらかというとき好きでない・好きでない」が回答

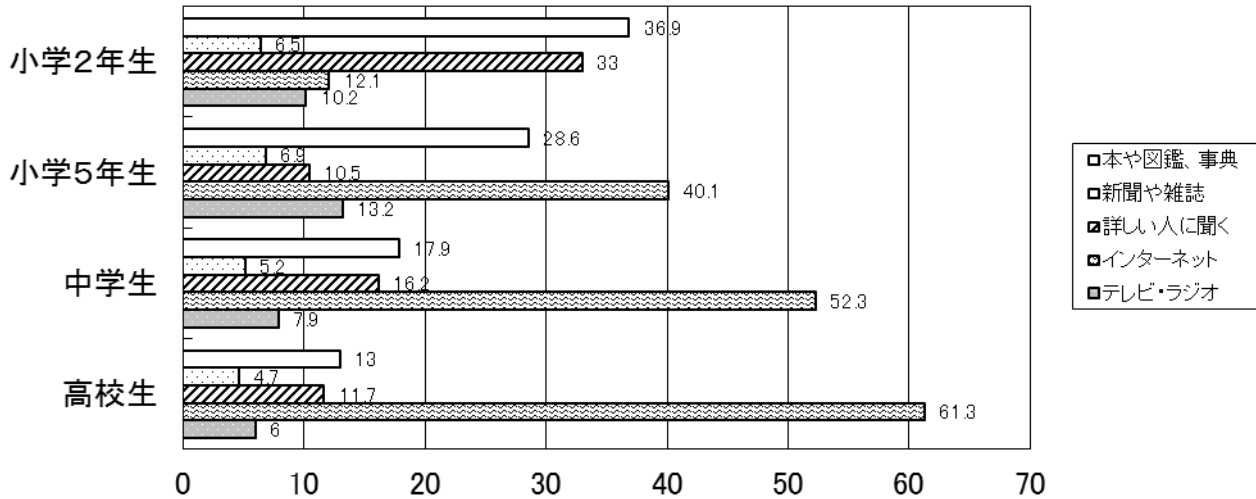


※「その他」の回答

小学5年生	中学生	高校生
<ul style="list-style-type: none"> <li>・面倒だから</li> <li>・探すのに時間がかかるから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面倒だから</li> <li>・時間がかかるから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面倒だから</li> </ul>

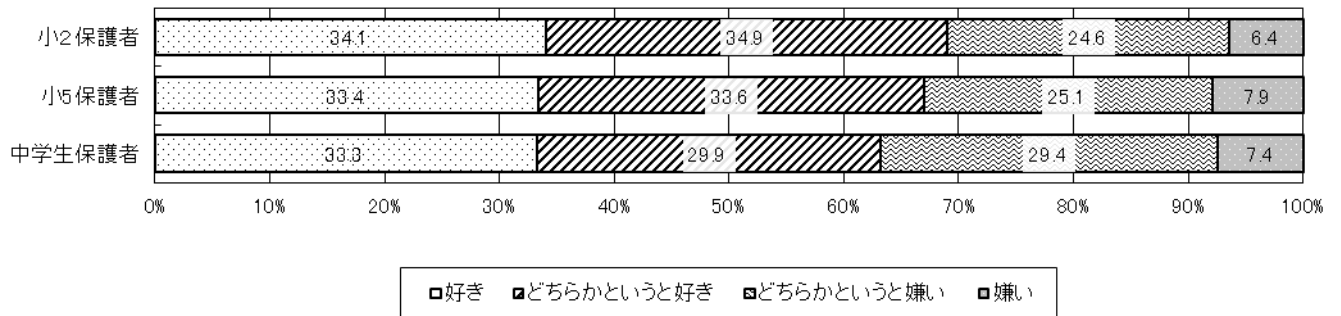


(16) 調べたいことがあるときに何を活用しますか

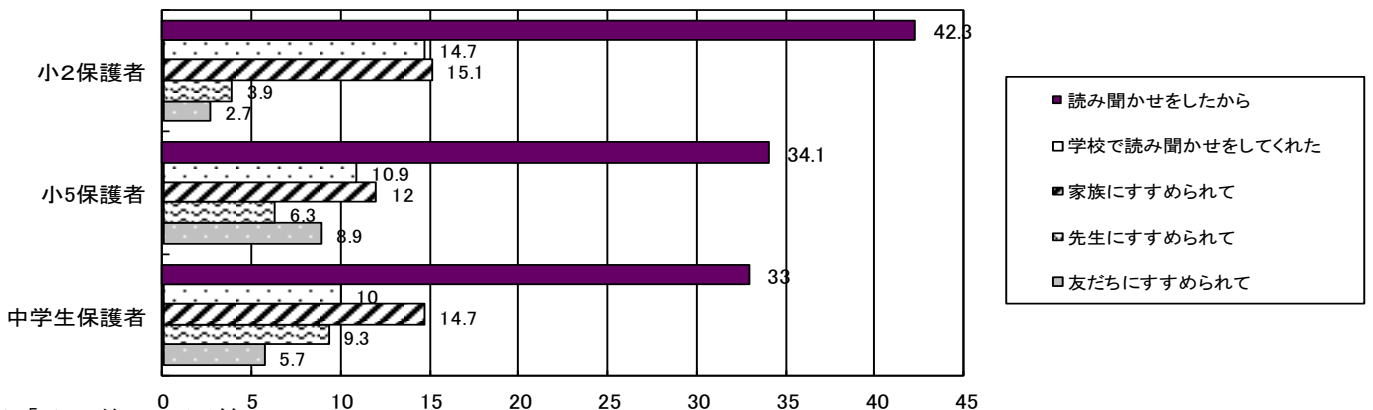


3 市内小・中学校の保護者

(1) あなたのお子さんは、読書が好きだと思いますか。



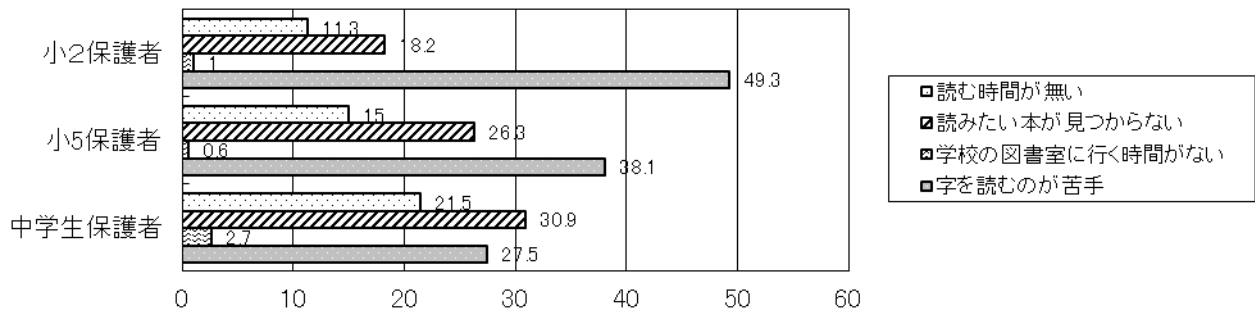
(2) なぜ読書が好きだと思いますか。※(1)で「好き・どちらかという好き」が回答



※「その他」の回答

小2保護者	小5保護者	中学生保護者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前から好きだったから</li> <li>・すぐに読めるよう本を置いていたから</li> <li>・好きなシリーズがあるから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい頃から好きだったから</li> <li>・家族が本を読む姿を小さい頃から見ていたから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校で本を読む時間があるから</li> <li>・小さい頃から好きだったから</li> </ul>

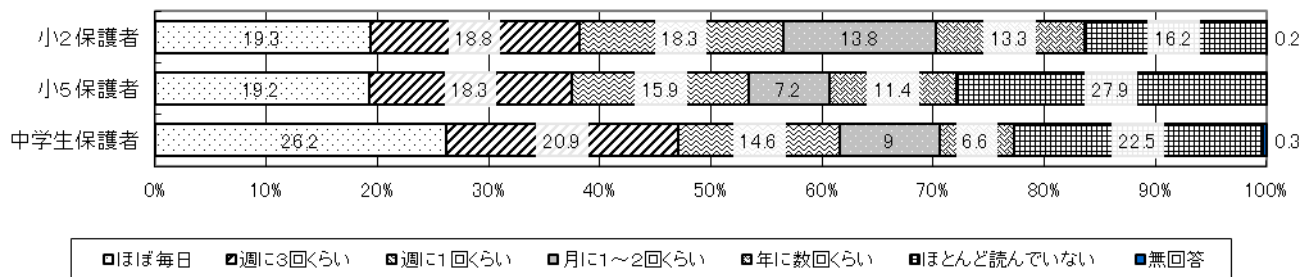
(3) なぜ読書が好きではないと思いますか。※(1)で「どちらかというと好きではない・好きではない」が回答



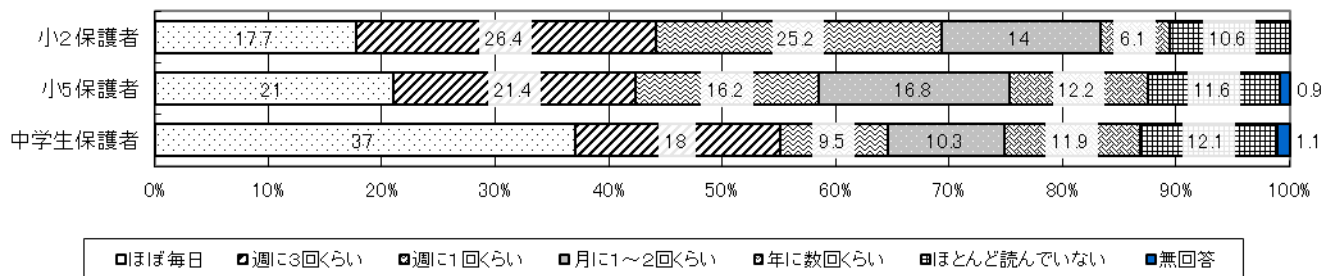
※「その他」の回答

小2保護者	小5保護者	中学生保護者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビやゲームの方が好きだから</li> <li>・集中力が無いから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームのほうが好きだから</li> <li>・読む気が無いから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームやタブレットの時間が多いから</li> </ul>

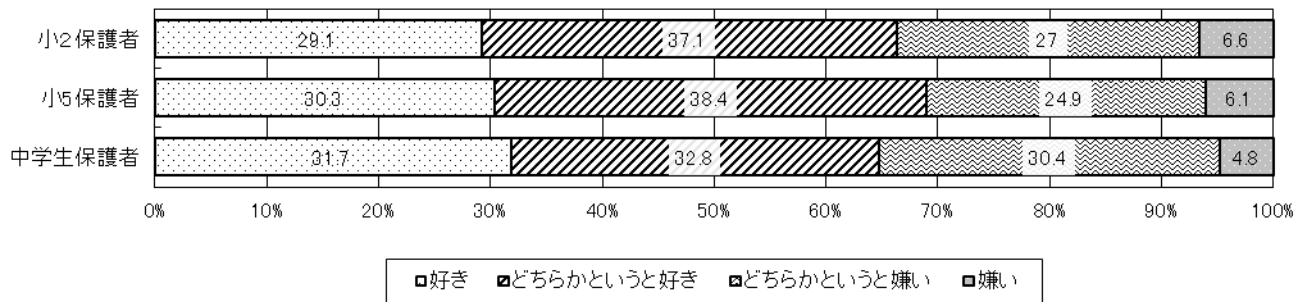
(4) ご家庭では、お子さんに本を読んであげていますか。(お子さんが小さかった頃も含めて)



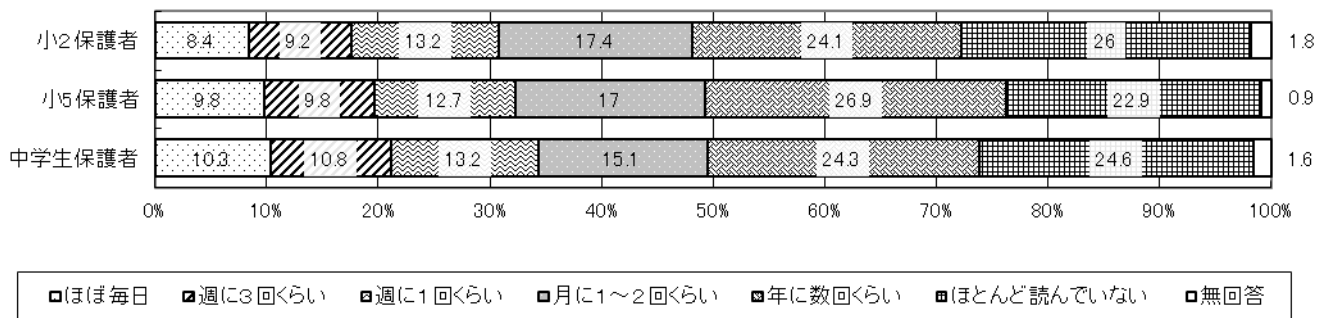
(5) あなたのお子さんは、どれくらい本を読んでいますか。(教科書や参考書、マンガや雑誌は除きます。)



(6) あなたご自身は、読書が好きですか。



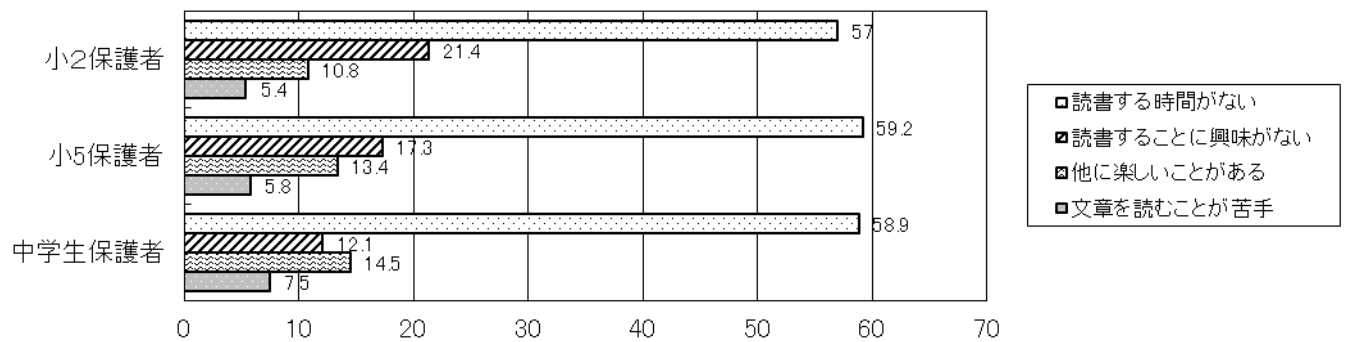
(7) あなたご自身は、ご家庭でどのくらい本を読んでいますか。



(8) (7)で「5」または「6」(※2)と回答した方にお聞きします。

その理由は何ですか。(複数回答)

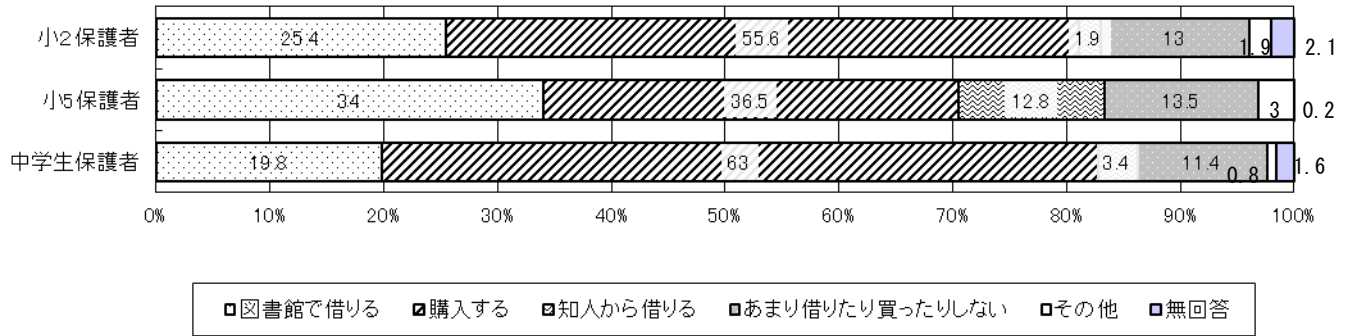
※2 5 年に数回くらい 6 ほとんど読んでいない



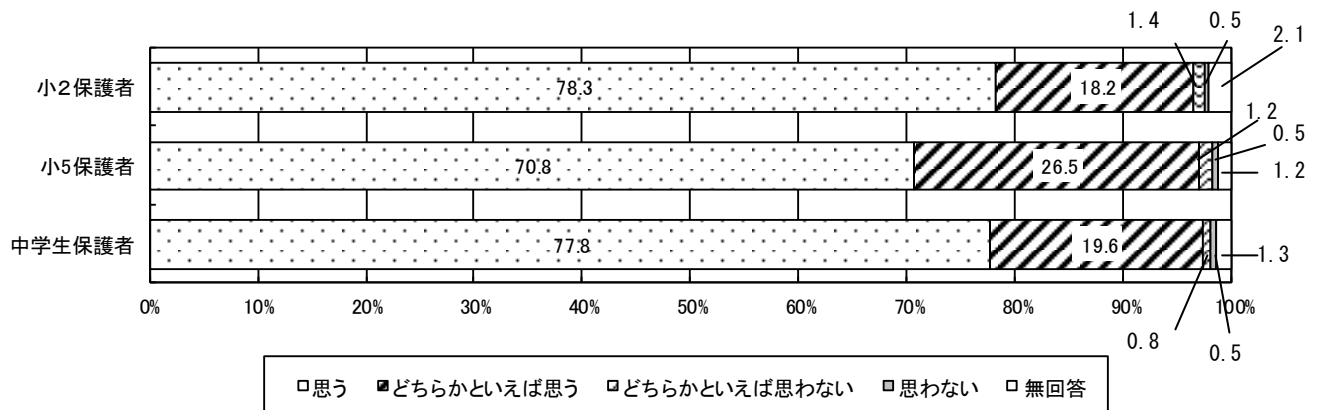
※「その他」の回答

小2保護者	小5保護者	中学生保護者
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの頃から、読んでいなかったから</li> <li>・面倒だから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・眠くなるから</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きな本がないから</li> </ul>

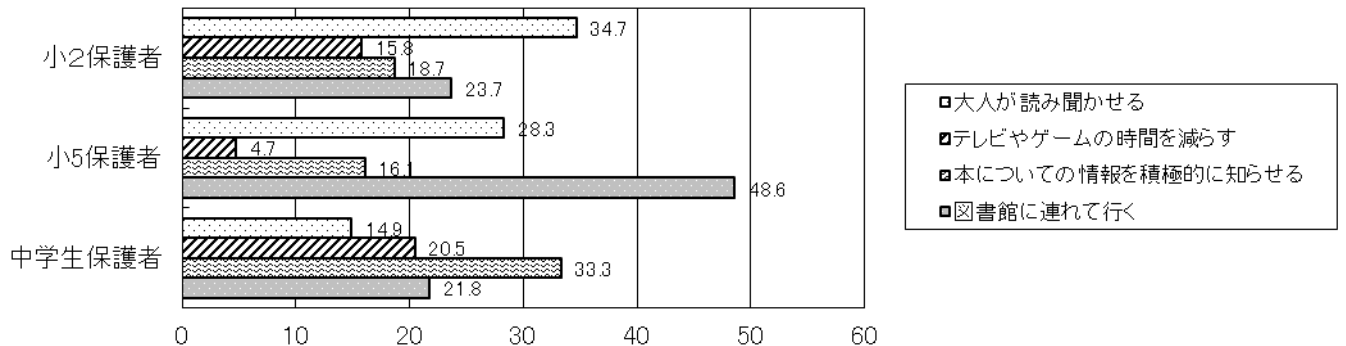
(9) あなたは、どのようにして本を入手されますか。(一番多い方法を選んでください)



(10) あなたは、本を読むことは大切だと思いますか。



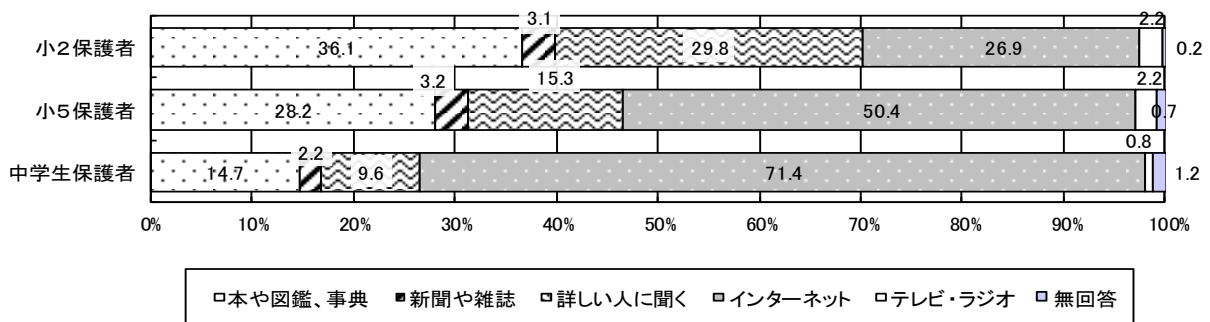
(11) どうすれば子どもたちがもっとよく本を読むようになると思いますか。(複数回答)



※「その他」の回答

小2保護者	小5保護者	中学生保護者
<ul style="list-style-type: none"> <li>親がもっと本を読む</li> <li>小さい家から読み聞かせをする</li> <li>親子で本の話をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家で読書の時間を作る</li> <li>楽しい本に出会うようにする</li> <li>家族で本を読む</li> <li>学校でも引き続き読書タイムをつくる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大人がもっと本を読む</li> <li>本の話をする</li> <li>図書館の本を充実させる</li> </ul>

(12) お子さんは、調べたいことがあるときに何を活用しますか。



## 2 学校における子どもの読書活動推進に係るアンケート調査

(市内小学校12校・中学校5校実施)

(1) 読書タイムの実施状況 (平成28年9月調査)

学校種	実施状況	校数
小学校	1日あたり10～15分間 週5回実施	8
	1日当たり15分間 週2回実施	4
中学校	1日当たり10分間 週5回実施	5

(2) 特別支援学級での読み聞かせの実施状況 (平成28年9月調査)

学校種	読み聞かせを行う人	校数
小学校	学級担任とボランティア 両方	5
	学級担任	3
	ボランティア	2
	学級担任と学校司書	1
	学級担任と学校司書とボランティア	1
中学校	学校	2
	学級担任	1
	教科担任	1
	学級担任と教科担任	1

(3) 図書主任と学校司書との連携について (平成28年8月調査)

学校種	連携の状況	校数
小学校	十分出来ている	3
	出来ている	7
	あまり出来ていない	2
中学校	十分出来ている	1
	出来ている	3
	あまり出来ていない	1

